

白山ふるさと文学賞

第七回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生3・4年の部 優秀賞

## 感謝

蕪城小学校四年

刈安 かりやす

隼 はやと

ぼくには、兄弟が二人いて、三才年上のお兄ちゃん、四才年下の弟がいます。あとはお父さんとお母さんの五大家族です。

お父さんは消防署で仕事をしているので一日は家に帰ってこないのです。その日はお母さん、兄、ぼく、弟の四人で過ごします。

ぼくは小さい頃からすぐにおこってしまったり、すぐに落ちこんでしまったりして、いつもお母さんをこまらせていました。

兄弟げんかをした時の事です。ぼくは口がわるいところもあって、口でお兄ちゃんや弟にひどい事を言うと、お兄ちゃんにたたかれましたので、お母さんには「お兄ちゃんがたたいた。」とつげ口をしていました。

お母さんは、お兄ちゃんではなく、ぼくを怒りました。なんでぼくが怒られるんだと思い、落ちこみます。落ちこんでいるぼくに、お母さんがやさしく話しかけてくれます。「雫は色々な言葉を知っているからもつと上手に使いなさい。」や「人の気持ちを考えた声かけしなさい。」と教えてくれます。

ぼくのお母さんは仕事をしています。どんなに疲れていても、仕事から帰ってくると笑顔で「ただいま。」と言って帰ってくれます。その笑顔でぼくたちは元気をもらいます。

そして、ぼくたちのためにご飯を作ってくれます。お母さんのご飯はとてもおいしくてすぐく元気をもらえます。宿題でわからないことがあり、少し怒っているぼくを見ると、横によつてきてくれて、ぼくがわかるように教えてくれます。

ぼくは小学校二年生から野球を習っています。お父さんはコーチ、お兄ちゃんは卒団したけど、地区大会でゆうしようして、県大会に出たことがあります。ぼくもお兄ちゃんのように、「ゆうしようしたい。」と思って野球をがんばっています。お母さんは月曜日から金曜日まで仕事をして、土曜日と日曜日しかお休みがないのに、練習や試合があるといつもお手伝いや応えんに来てくれます。お母さんが応えんに来てくれているときにもコーチにおこられます。落ちこんで家に帰ったら、その話を聞いてくれて、ぼくにアドバイスをくれます。そのアドバイスのおかげで

ぼくは、野球チームのキャプテンになることができました。

野球でユニフォームがどろだらけになっても、「練習、頑張ったんだね。」と言いながら水で切れた手で一生けん命ユニフォームを洗ってくれます。そのおかげで、練習や試合で着るユニフォームはいつも真っ白で、気持ちよく頑張れます。

水泳も習っています。でもなかなか上達することができなくて、テストに落ちることがいっぱいあります。テストに落ちた時には、「テストに落ちても一生けん命、頑張ることが大切なんだよ。」と教えてくれます。お母さんはどんな時も、ぼくのために色々なアドバイスをくれて、どんなときもぼくが頑張れるように声をかけてくれます。

いつもやさしいお母さんですが、ぼくが宿題をやらないときや、言われたことをやらない時には、お父さんのように怒ります。その時は、甘えるところがなくてこまることがあります。でも時間がたったら、お母さんはやさしく声をかけてくれて、何で怒ったのかを教えてください。

お母さんはぼくたちが成長できるようにいつも色々なアドバイスをくれます。「自分がされていやなことは人にはしない。」「言われていやなこととは言わない。」「自分でできることは、しっかりと自分でやる。」とかです。なんでこんなことが大切なのかと聞いたたら、「人の気持ちを思いやれる、やさしい大人になってほしい。」と言われました。お母さんのアドバイスはぼくにとつて、すぐ成長できる言葉だと思います。

お母さんがいつも何気なくしてくれるアドバイスがあるから、ぼくは少しずつ成長できていると思います。いつもなかなか言えないけど、この場で思い切ってお母さんに伝えます。

お母さん、いつも本当にありがとうございます。お母さんのアドバイスやサポート本当に感謝しています。

最後に、いつも休みの日までぼくたちのためにがんばってくれてありがとう。野球の練習を見てください。応えんしてくれたら、病気になるにうれいす。でも、たまにはゆっくりする時間も作って、病気になるにうれいす。ぼくは、まだまだ甘えん坊です。